

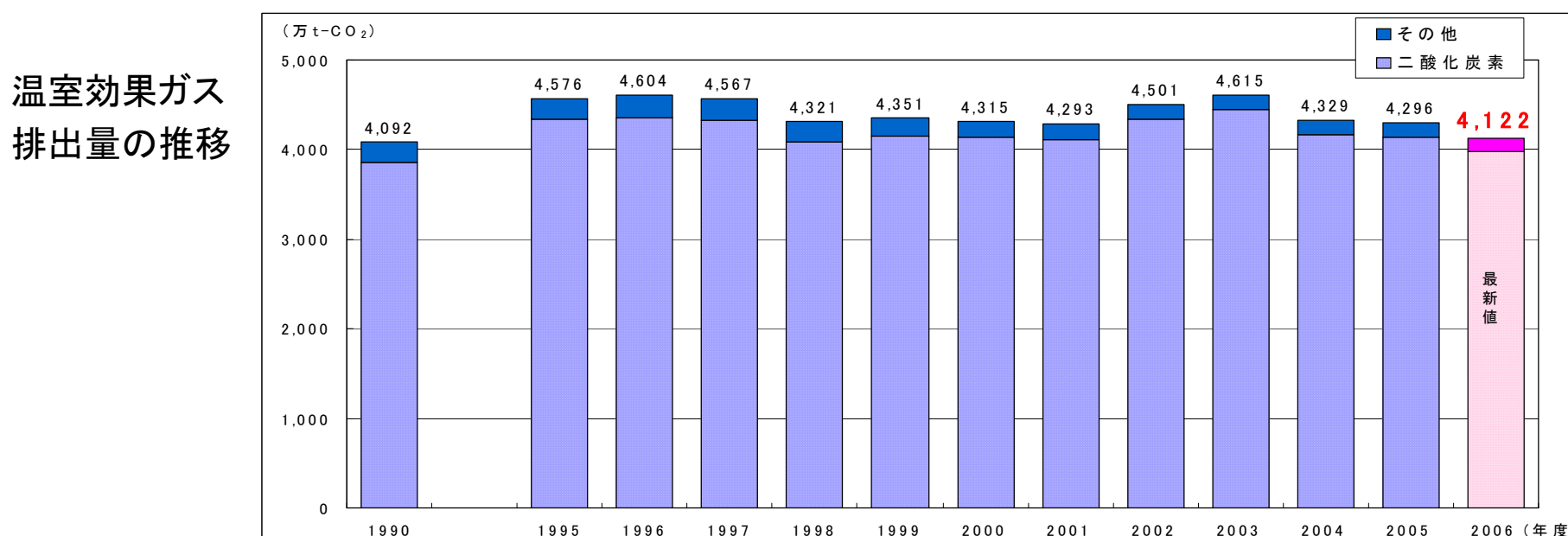
# 埼玉県の温室効果ガス排出状況 ～平成18（2006）年度～

環境部 温暖化対策課

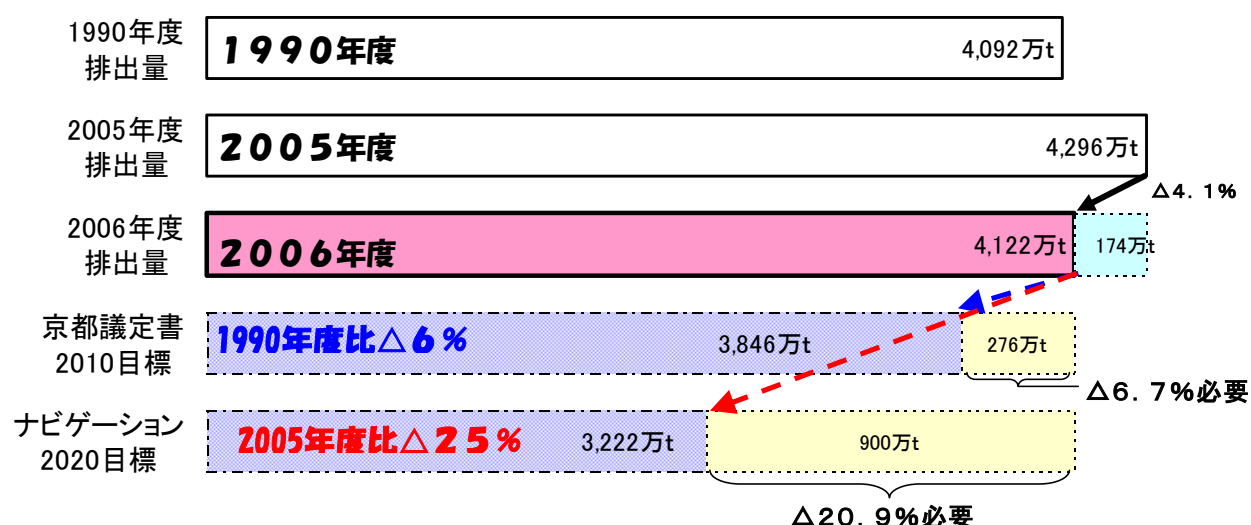
## 1. 平成18年度（2006年度）の温室効果ガスの排出量 【4,122万トン／年】

特徴	①前年度比△4.1%→対策を実施した1995年度以降最低の排出量※ ＜ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050の目標：2005年比、2020年までに△25%＞
	②1990年度比（京都議定書基準年）では、0.7%増加 ＜目標達成（2010年までに△6%）には、あと4年で6.7%の削減が必要＞
	③電力原単位の改善を除く、実質的な削減は、△1.7%

※平成19年度（2007年度）は新潟中越地震による柏崎刈羽原発停止の影響により、排出量は7%程度増加の見通し



### 目標の達成状況



## 2. 温室効果ガス排出の内訳(実質削減分△1.7%)

各部門とも着実に削減が進んでいるが、家庭部門は世帯数の増加により排出量が増加している。

### 主な増減要因（前年度比）

部門	実質削減率	主な増減要因
<b>産業部門</b>	△1.9%	省エネ対策・重油から都市ガスへの燃料転換の推進により減少
<b>業務部門</b>	△6.7%	暖冬や省エネ対策の推進により、燃料消費が減少
<b>家庭部門</b>	+1.6%	世帯数が1.7%増加している影響
<b>運輸部門</b>	△0.5%	自動車保有台数は増加しているが、燃費の向上により減少

※電力原単位の改善による削減を除いた実質削減率